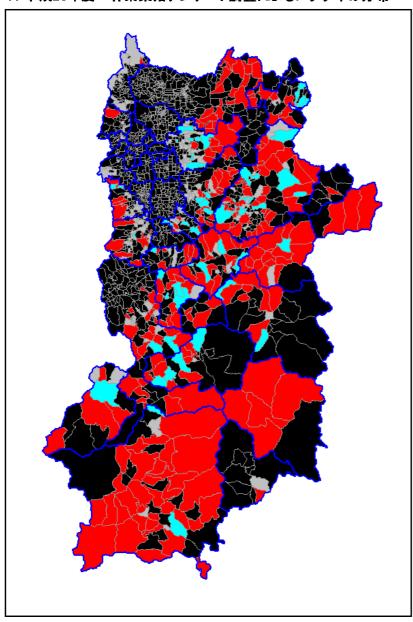
農業・林業集落アンケート調査によるノウサギの生息状況・被害状況 (平成26年度)

1. 平成26年度 林業集落アンケート調査によるノウサギの分布



左図は、平成26年度の農林業集落 アンケート調査による、ノウサギの分 布である。

林業集落でノウサギが「いる」と回答があった場合に「いる」と回答があった場合に「分布している」とした。回収無しには既に人が住んでいない集落も含まれている。

ほぼ県内全域の山林から「いる」と 回答があった。

平成26年度

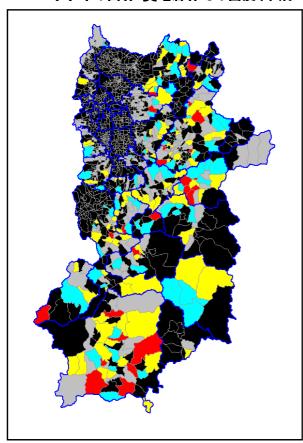
いる 251集落 いない 60集落 回答無し 136集落 回収無し 1361集落 全 1808集落

参考)平成25年度

いる 251集落 いない 66集落 回答無し 121集落 回収無し 1370集落 全 1808集落

凡例 図中 <u>青線</u> 市町村界 市町村界内側の線 大字・地区界 なお、この市町村界、大字・地区界の凡例は次項以降の図も同様である

2. ノウサギの山林・奥地森林での出没(平成26年度)



左図は平成26年度の林業集落アンケートによる、ノウサギの山林・奥地森林での出没状況である。

ノウサギが「いる」と回答があり、かつ本設問の回答が あった集落の内訳は下記の通りである。

平成26年度は「よく見る」との回答が約13%、たまに見るが約49%であった。

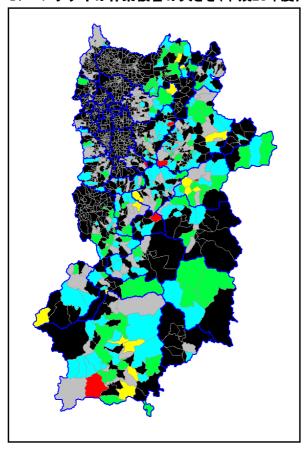
平成26年度

よく見る 24集落(12.5%) たまに見る 94集落(49.0%) あまり見ない 74集落(38.5%) 回答数 192集落

参考)平成25年度

よく見る 17集落(8.3%) たまに見る 94集落(45.6%) あまり見ない 95集落(46.1%) 回答数 206集落

3. ノウサギの林業被害の大きさ(平成26年度)



左図は平成26年度の林業集落アンケートによる、ノウサギの林業被害の大きさの意識調査の結果である。ノウサギが「いる」と回答があり、かつ本設問に回答のあった集落の内訳は下記の通りである。

ノウサギの林業被害は、「軽微」なものが約34%と最も 多かった。「深刻と「大きい」は併せて約9%であった。

かつてはノウサギによる林業被害、特に新植地での摂食被害は非常に大きいものであったが、近年は新植地は減少し、ノウサギの被害も減少している。本年度の調査も、そのような状況を反映していると考えられる。

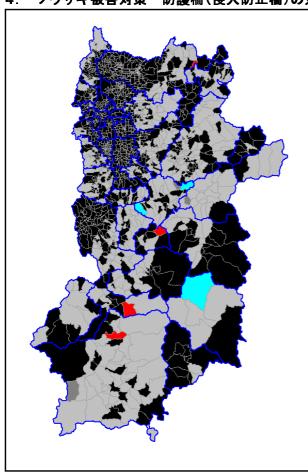
平成26年度

ほとんど無い 134集落(57.3%) 軽微 79集落(33.8%) 大きい(生産量の30%未満) 15集落(6.4%) 深刻(生産量の30%以上) 6集落(2.6%) 回答数 集落

参考)平成25年度

ほとんど無い 143集落(60.1%) 軽微 81集落(34.0%) 大きい(生産量の30%未満) 9集落(3.8%) 深刻(生産量の30%以上) 5集落(2.1%) 回答数 238集落

4. ノウサギ被害対策 防護柵(侵入防止柵)の効果(林地・平成26年度)



左図は平成26年度の林業集落アンケートによる、ノウサギの林業被害対策の、防護柵(侵入防止柵)の設置による効果の意識調査の結果である

ノウサギが「いる」と回答があり、かつ本設問に回答のあったのは7集落のみであった。

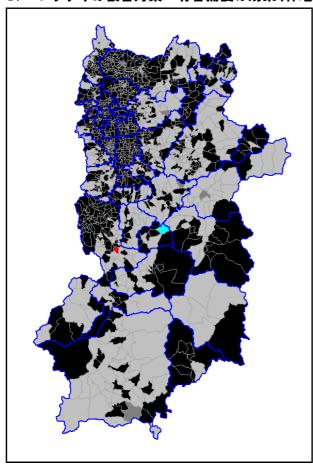
平成26年度

■効果があった 4集落 効果がなかった 3集落 回答数 7集落

参考)平成25年度

■効果があった 7集落 効果がなかった 1集落 回答数 8集落

5. ノウサギの被害対策 有害捕獲の効果(林地・平成26年度)



左図は平成26年度の林業集落アンケートによる、林 業被害対策の、有害捕獲を実施した効果の意識調査 の結果である。

本設問へ回答は2集落のみであった。

_平成26年度

■ 効果があった 1集落 ■ 効果がなかった 1集落 ■ 回答数 2集落

参考)平成25年度

■効果があった 4集落 効果がなかった 2集落 回答数 6集落